⟨彼女の名前は近藤麻美⟩

⟨仕事帰りに幼なじみと ごはんを食べたり平凡な生活を 送っていたのですが…⟩

(麻美) ⟨え？ 死んだ…？⟩

⟨そこで告げられた来世は…⟩

(受付係) オオアリクイ｡

必要な徳が 不足している可能性は高い…｡

近藤麻美様として 同じ人生を やり直すことでしたら可能…｡

⟨１周目では気付かなかった玲奈ちゃんのパパと洋子先生の 不倫を阻止したり…⟩

(福田) 音楽やろうと思っててさ｡

⟨福ちゃんが 音楽の道に進もうとするのを止めようとして…⟩

(麻美) ⟨今 止めたら 子供も 生まれなくなるってことだ⟩

⟨結局やめたり⟩

⟨彼女の人生２周目は まだまだ続きます⟩

📱(アラーム)

(麻美) ⟨２周目の人生も26年目⟩

⟨今年から勤め先が 近場の 調剤薬局に異動になったことでこれまでより30分長く 寝られるようになった⟩

(麻美) ⟨朝の30分は 夜の２時間くらいの価値がある⟩

📺 うん うまい！

(麻美) あっ そうだ 今度の日曜日 おじいちゃん家 行ってくる｡

(久美子) ホント？ じゃあ お土産 渡すから持ってって｡

(麻美) 分かった 遥も行かない？

(遥) ていうか運転でしょ？

(麻美) まぁ それもあるけど｡

(遥) 日曜？ いいよ｡

(麻美) やった じゃあ よろしく｡

そういえば お父さんは？

ウオーキング｡ >> ウオーキング？

何か 今日から始めたみたい｡

(麻美) へぇ～｡

>> 絶対 続かないよね｡ >> どうだろうねぇ｡

(麻美) ⟨私の記憶にないということは すぐに やめたということ⟩

(ドアが開く音) ちょうど帰ってきた｡

(寛) いい汗かいた｡

(久美子) シャワー浴びてから ごはんにする？

あぁ そうだね｡

(麻美) １週間かな｡ >> 私もそれくらいだと思う｡

え～？ でも ジャージーまで買ったんだよ｡

(麻美) あれ そうなんだ｡ >> うん｡

(麻美) じゃあ ２週間？

(遥) いや待って 10日じゃない？

え～ せめて１か月は やるでしょ｡ いやいや… １か月はないって｡

(久美子) ないかなぁ？ あの すいません｡

そういうのってさ普通 本人いないところで 話すんじゃないかな｡

せめて シャワー行くまで 待てなかったかな｡

♪～

(麻美) ⟨前の店舗では 当番制だったけどここでは 一番最初に着いた人が 鍵を開けるのがルール⟩

(宮岡) おはよう｡

(麻美) おはようございます｡

⟨宮岡さんは仕事も丁寧で 物腰も柔らかく基本的には いい先輩⟩

ごめんね｡

(麻美) ⟨ただ １個だけ 嫌なところがあって…⟩

⟨彼は いつも一番早く お店に着いているのに決して自分では鍵は開けずなぜか 車の中で待機し誰かが開けるのを 見届けてから…⟩

(麻美) ⟨｢今 来た｣ みたいな顔で出勤する⟩

⟨この謎の行動だけが ピンポイントで気持ち悪い⟩

⟨それ以外は いい人⟩

♪～

袋いれますか？ >> 大丈夫です。

お大事になさってください。

(下川) お医者さんの白衣は 分かんだけどさ薬剤師の白衣って おかしくない？

(麻美) 何でですか？

だってさ 白衣って汚れが 目立つようにするためでしょ？

(麻美) そうですね｡

うちらの仕事の汚れって 主に粉末じゃん？

白衣だと逆に目立たなくない？

(麻美) 確かに そうですね｡

絶対 黒のほうが いいと思うんだよね｡

(麻美) 黒衣ってことですか？

そう そのほうが 汚れが目立つじゃん｡

(麻美) ⟨そんな下川さんの白衣には漆黒のインクの染みがあった⟩

⟨職場が市役所の近くなのでお昼は市役所時代にも通っていた お店で食べることも多く結局 ここにたどり着く⟩

(春菜:美樹) いただきま～す｡

(麻美) ⟨ちなみに 彼女たちは…⟩

(春菜)〔絶対キレられる〕

(麻美)〔絶対キレられる〕

⟨１周目の同僚⟩

⟨当然 向こうは私を知らない⟩

そういえばさ 竹内君と どうなったの？

(美樹) あぁ この間 また ごはん行ったんだよね｡

(麻美) ⟨恋愛の話？⟩

>> 告白されちゃった｡ >> ハッ…！ やったじゃん！

(麻美) ⟨私がいた時は ほぼ毎回…⟩

〔私も前までは ｢こんにちは｣って 言ってたけどさ一回キレられたんだよね なれなれしいっつって〕

>> 〔普通に挨拶でしょ？〕

(麻美)〔でしょ 意味分かんなくない？〕

⟨仕事の愚痴か 上司の悪口⟩

(春菜) 年齢なんて関係ない…｡

(麻美) ⟨私が そうさせて いたのだろうか⟩

ごちそうさまです｡

(店員) ありがとうございます｡

(麻美) ⟨あの２人が恋愛の話を？⟩

⟨あんなにも楽しそうに 恋愛の話を？⟩

〔いいな！〕

(麻美) ⟨この件は思いの外 引きずった⟩

(遥) 最近 結構行ってるよね おじいちゃん家｡

(麻美) あ～ そうだね｡

この年で急に おじいちゃん子に なるとかあるの？

(麻美) 別に そういうわけじゃないけどさ｡

学生の時 なかなか 行けなかったじゃん？ >> まぁね｡

(麻美) ⟨確かに最近 私はよく 祖父母の家に行っている⟩

⟨というのも 実は １周目のこの時期から祖父は体調を崩しがちになりその２年後に亡くなった⟩

⟨さすがに持病だけは どうすることもできないのでこうして時間の許す限り 会いに行くようにしている⟩

(祖父) 麻美 仕事どうだ？

(麻美) うん だいぶ慣れてきたよ｡

あのね 今年から家の近所に お店が変わったから朝 だいぶ楽になったの ありがとう｡

(祖父) そりゃよかったな｡

(麻美) うん｡

>> 遥 今 大学生だな｡ >> そうだよ｡

おじいちゃん どっか悪いの？

えっ フフ… 大したことじゃないよ｡

(祖母) おじいちゃん 昔から心臓 弱かったでしょ｡

ここ最近 ちょっと良くないみたいでね｡

そっか あんま無理しないでね｡

うん そんな心配するほどの ことじゃないよ｡

(麻美) あれ？

おじいちゃん 今 お薬 お茶で飲んだでしょ？

飲んだよ｡

(麻美) ダメだよ ちゃんと 水か ぬるま湯で飲まないと｡

>> 別に大差ないだろ｡

(麻美) ううん 溶ける時間とか体が吸収する時間が 変わってきちゃうんだからちゃんと正しく飲まないとダメ！ >> さすが 薬剤師｡

分かった じゃあ 次からそうするよ｡

(麻美) そうして｡

見て こうやって 薬 見つけると すぐ成分とか見んの｡

あっ そう｡

癖になってんの 家でも そうだからね｡

(祖母) やっぱり気になるんじゃない？

(麻美) こっちの お薬は何？

(祖父) こっちは夜飲むほうの薬｡

(麻美) ふ～ん｡

(遥) 休みの日くらい 薬のこと 忘れたらいいのにね～｡

(祖母) それだけ やりがいが ある仕事ってことじゃない？

(麻美) えっ ねぇねぇ｡

この薬と この薬を 毎日 飲んでんの？

うん 飲んでるよ｡

(麻美) ⟨私の知る限り この２つは 飲み合わせが非常に悪い⟩

⟨１周目で 祖父の症状が 悪化したのはこれが原因かもしれない⟩

⟨確かに今思えば 悪化するスピードも早過ぎた⟩

おじいちゃん｡ >> ん？

(麻美) このお薬と このお薬 いったん飲むのやめてくれる？

どうして？

(麻美) あのね この２つって 飲み合わせが悪いはずなんだよね｡

お医者さん 出してくれてんだから 大丈夫だろ｡

(麻美) いや これ 処方してる病院が違うから多分 気付いてないんだと思うよ｡

(遥) そうなの？

(麻美) うん｡

取りあえず 薬局に行って相談するけど飲まないでおいて｡

分かった 麻美が そんなに言うなら飲まない｡

(麻美) うん そうして｡

原田信博様の件で ちょっと お伺いしたいんですけれども｡

長くない？

(麻美) 病院に確認したり いろいろ大変なんだよ｡

ふ～ん｡

そんな時間かかるもんなの？

(麻美) かかるもんなの～！

(薬剤師) 原田様｡

大変お待たせして 申し訳ございません｡

こちらで改めて確認したところ 原田様のおっしゃる通り併用してはいけない薬が 処方されておりました｡

(麻美) やっぱ そうですよね～｡ ⟨思った通りだった⟩

⟨あの飲み合わせが 祖父の命を縮めていた⟩

⟨この後 祖父は無事 正しい薬を 処方してもらうことができた⟩

⟨それから２週間後⟩

さっき おばあちゃんから 電話があっておじいちゃん かなり体調良くなったって｡

(麻美) やった！

(遥) さすが薬剤師｡

(麻美) ⟨今のところ これが２周目史上 一番のファインプレー⟩

⟨それはそうと 実は あの日から 引きずっていることがある⟩

⟨薬局で たまたま開いた ビジネス雑誌で年商10億の実業家として 紹介されていたのは…⟩

⟨田邊 勝⟩

⟨私と付き合った１周目では…⟩

(田邊)〔何か ごめんね〕

(麻美) ⟨お金にだらしなく 職も転々としていたのに私と付き合っていない ２周目では年商10億の実業家⟩

⟨これは しばらく引きずると思う⟩

(遥) ていうか お父さん ウオーキングは？

あ やめた｡ >> そうなの？

あぁ… いや ウオーキングの デメリットを調べたらさやっぱり歩き過ぎは 体に良くないみたいなんだよね｡

歩き過ぎなきゃ いいんじゃないの？

(麻美) ウオーキングのデメリットを 調べる時点でやめる理由 探してたでしょ？

いや そういうわけじゃ ないんだけどね｡

お父さん いったん シャワー行ってもらっていい？

何で？

いや 朝だよ？

(夏希) 海外 行きたくない？

(麻美) ⟨２周目の人生も33年目⟩

⟨１周目の この日のことは 割と鮮明に覚えている⟩

(夏希) みーぽん ちょっと過ぎちゃったけどお誕生日おめでとう！

(麻美) おめでとう！

(夏希) はい これ うちら２人から｡

(美穂) いいの？ ありがとう｡

開けていい？

(夏希) うん 開けて開けて｡

(美穂) あっ！ これ めっちゃ欲しかったやつ｡

(麻美) ホント？ よかった～！

(美穂) 結構したんじゃないの？

(夏希) いや そんなでもないよね｡

(麻美) うん ２人で出したしね｡

(美穂) 本当？

(麻美) あっ みーぽん 今回は店員さん 何にも持ってこないからね｡

(美穂) ん？

(夏希) 花火がバチバチ～ってなるやつ｡

(美穂) プレート？

(麻美) 今年は なしにしたんだよね｡

(夏希) みーぽん ああいうの 恥ずかしがるから｡

(美穂) そうなんだ 何かごめんね｡

(麻美) あと 店員さんに ちゃんと説明しといたから｡

(美穂) 説明？

(麻美) うん 私の誕生日の時に花火のバチバチ～ってやつやって 今回やらないのはこの子が そういうの 苦手だからであって決して この子の扱いが 低いとかじゃないですよって…｡

(美穂) そんなこと言ったの？

(麻美) うん｡

言わないと みーぽん 気にするからさ｡

(美穂) やめてよ 余計恥ずかしいじゃん｡

(麻美) もう全部分かってるから 大丈夫 大丈夫｡

(美穂) やめて 何かそういう目で 見られてたの？ 私 最初から｡

ねぇねぇ 昨日 机 整理してたらさすっごい懐かしいの見つけた｡

(夏希) 何？

(美穂) 見て これ｡

(夏希) う～わ 懐かしい！

(麻美) これ 中２の時だよね？

(美穂) ラウンドワン出来て すぐじゃない？

(夏希) 行ったね！

(麻美) ねぇ このポーズ懐かしくない？

(美穂) これでしょ？

何か 専門学校のポスターの真似｡

(麻美) 熊谷ビューティー学院ね｡

(美穂) それそれそれ！

(夏希) この時やたら これやってたよね｡

(麻美) やってたね～｡

みさごんさ 熊谷ビューティー学院 行ったよね｡

(美穂) 行ったね｡

(夏希) てか ｢みさごん｣って何十年ぶりに聞いたんだけど｡

(麻美)｢ごんみさ｣ね｡

(夏希) 途中から｢ごんみさ｣になってたね｡

(麻美) 最終的には ｢ごんちゃん｣だったかな｡

(美穂) 何なら 一部では ｢ちゃんごん｣だったよね｡

(夏希) もう原形ないし｡

(美穂) そういえばさ 真里ちゃん 覚えてる？

(麻美) 宇野真里ちゃん？

(美穂) そう 生徒会長の｡

真里ちゃん 今 何やってるか 知ってる？

(夏希) 知らない｡

(麻美) 何だろうな 当てたいな～｡

(美穂) いや 当たんないと思うわ｡

(夏希) ってことは お医者さんとか 弁護士ではないってこと？

(麻美) パイロット｡

(美穂) え そう｡

(麻美) やった～！

(美穂) 何で分かったの？

(麻美) 真里ちゃんだったら そのくらいに なってるかなと思った｡

(夏希) にしても 普通 パイロットは出てこないでしょ｡

(麻美) そうかな？

(美穂) 真里ちゃん すごいよね｡

(麻美) もうさ 物理的にも 雲の上の存在になっちゃったよね｡

(美穂) もうさ 真里ちゃんの 何がすごいってさ勉強できて スポーツできて 顔かわいいのに全然 鼻につかないところ｡

(夏希) あ～ 分かる いい子なんだよね｡

(麻美) そこまでいくとさ むしろ 性格悪いよね｡

(夏希) ん？

(美穂) どういうこと？

(麻美) うちらにさ 妬むことすらさせて くれないわけじゃん｡

(夏希) 確かに｡

もう褒めるしかできないもんね｡

(麻美) そうなんだよ｡

(美穂) いいじゃん 褒めたら｡

(夏希) あの子 絶対 人生２周目だよね｡

(麻美) あったね 宇野真里タイムリープ説ね｡

(夏希) じゃなきゃ あそこまで優秀になれないよ｡

(麻美) ⟨私は２周目でも 無理だったけど⟩

(美穂) 真里ちゃん ちょっとさ 完璧過ぎて…｡

久しぶり｡

(麻美) うわぁ…｡

(美穂) あっ｡

(麻美) 玲奈ちゃんだ｡

(玲奈) そうそう｡

(美穂) 最初 誰か分かんなかった｡

(麻美) 何か雰囲気 変わったね｡

>> ホント？ ３人 全然変わんないよ｡

(麻美) 変わんない？

え～ 変わって…｡

⟨１周目では ここで玲奈ちゃんに 会うことはなかった⟩

⟨けど ２周目では向こうから 話しかけてきてくれた⟩

(美穂) ちょっとさ 完璧過ぎて…｡ >> 久しぶり｡

(美穂) 座る？

(麻美) ⟨恐らく１周目では 保育園の途中までしか一緒じゃなかったから お互い 気付かなかったんだと思う⟩

⟨だけど 私が２周目に玲奈パパの不倫を 阻止したことによって彼女は引っ越すことなく…⟩

(玲奈)〔“HEY！HEY！HEY！”のｹﾞｽﾄ SPEEDだよね〕

(麻美) ⟨そのまま 小学校⟩

(玲奈) 〔エマ･ワトソンかわいいよね〕

(麻美) ⟨中学校と一緒だったので…⟩

懐かしいね これ｡

(麻美) ⟨お互い 気付くことができた⟩

(美穂) そうなんだ 彼氏 どんな人？

(夏希) 写真 写真｡

(麻美) 見たい 見たい…！

分かった ちょっと待ってね｡

これが 一番分かりやすいかな｡

(美穂) どれどれ？

あ～ いいじゃん！

(夏希) インテリ系だよね｡

(麻美) ⟨そこに写っていたのは…⟩

(麻美) ⟨宮岡さんだった⟩

(夏希) 何やってる人？ >> 薬剤師｡

(夏希) そうなんだ あーちんと一緒じゃん｡

(麻美) うん そうだね｡ >> あーちん 薬剤師さんなんだ｡

(麻美) そうそう…｡

(夏希) どこで出会ったの？ >> えっとね～｡

私 大学時代 ドラッグストアで バイトしてたんだけど隣の調剤薬局で彼が働いてたの｡

(美穂) 大学時代ってことはさ もう10年以上前だよね？

そう でも最初は 職場で顔合わせるぐらいで連絡先とか知らなくて それから しばらくして３年前かな？

あの… ちょうど 令和の元号が発表された日｡

(美穂) ４年前だね｡ >> ４年前か｡

その日に 夢庵でごはん食べてたら そこに たまたま彼がいて｡

(美穂:夏希) へぇ～｡

(玲奈) で お互い１人だったから 一緒にごはん食べて｢また行きましょうね｣って 連絡先 交換してそこから徐々に仲良くなって｡

(美穂) いいね ねぇねぇ 今度会わしてよ｡

うん じゃあ今度 連れてくるね｡

(夏希) 楽しみ！

じゃあ 私 そろそろ行くね｡

ありがとね｡

(美穂) こちらこそ ありがとう｡

うれしかったね｡ >> 私も｡

(麻美) またね 玲奈ちゃん｡ >> またね～｡

(美穂) バイバ～イ｡

バイバ～イ｡

(麻美) ⟨玲奈ちゃんは 知っているのだろうか⟩

⟨あの人が既婚者だということを⟩

(麻美) ⟨それにしても 玲奈ちゃんは…⟩

⟨なぜか 不倫に縁がある⟩

(夏希) うらやましい｡

(美穂) 年上だったから｡

(夏希) うちらも そろそろ行く？

(麻美) うん そうだね｡

(美穂) 帰りにプリクラ撮ってかない？

(夏希) あっ いいね｡

(麻美) ラウンドワン？

(夏希) 開いてるかな｡

(美穂) あそこ 朝までやってるでしょ｡

(夏希) じゃあ 行こう｡

(麻美) ⟨玲奈ちゃんとの再会という 予定外の出来事はあったけど…⟩

(夏希) 目 ヤバくない？

(麻美) 最近のヤバいの｡

(美穂) じゃあ 熊谷やろうよ｡

(夏希) 懐かしい｡

(美穂) あっち向き？

(麻美) ⟨予定通り プリクラを撮った私たちは…⟩

⟨予定通り 福ちゃんのいる カラオケボックスへ⟩

(福田) いらっしゃいませ 何名様ですか？

(麻美) お～！ おっ おっ…！

福ちゃんじゃん｡ >> お～ お～ お～！

誰かと思ったわ｡

(美穂) 福ちゃん 久しぶり｡

久しぶり えっ ３人 いつ以来だっけ？

(夏希) いつだろう？ 成人式が最後じゃない？

(美穂) そうだね｡

(麻美) 13年ぶりだね｡

そんな経つかぁ 今日は何の集まり？

(夏希) 何の集まりっていうか いつもの集まりだよね｡

(美穂) モンターニャでごはん食べてきた｡ >> あぁ そうなんだ｡

(福田)〔これ サービス〕

(３人)〔わぁ～！〕

(夏希)〔いいの？ 怒られない？〕 >> 〔大丈夫〕

(麻美)〔もう言っちゃうけどさ〕

(夏希)〔ん？ 何？〕

(麻美)〔入んないよね〕

(美穂)〔食べてきちゃったからね〕

(夏希)〔気持ちは 超ありがたいんだけど 全然入んない〕

(麻美)〔気持ちは 超ありがたいのよ〕

パスタをお腹いっぱい 食べてきたよね｡

(夏希) 食べたね｡

(麻美) もう何にも入んないんだよね｡

おぉ…｡

時間どうする？

(美穂) どうしよっか｡

(麻美) ２で いいかな？ >> ２時間ね｡

今 すいてるから 広い部屋にしとくね～｡

(３人) ありがとう｡

(夏希) わっ 広っ！

(美穂) お～｡

(麻美) 広いよね～｡

(美穂) あれ？ 成人式の後も ここ来なかったっけ？

(麻美) 来た 部屋もここだった｡

(美穂) そうだよね でさ 福ちゃんがさ何か “粉雪”か何か歌ってさ みんな ｢うま！｣ってなったよね｡

(麻美)“粉雪”じゃないよ｡

(美穂) 違ったっけ？

〔♪～ オレは イケナイ太陽〕

〔♪～ Ｎａ Ｎａ〕

(麻美) ORANGE RANGE｡

(美穂) そうだっけ？

(麻美)“粉雪”は加藤｡

(加藤)〔♪～ 粉雪 ねえ〕

(美穂) え？ ていうか よく覚えてんね｡

(夏希) 誰から歌う？

(麻美) 早くね？

(夏希) えっ 早い？

(麻美) 取りあえず ドリンク来てからにしよう｡

(夏希) そうする？

(麻美) ⟨間もなく 福ちゃんが入ってくる⟩

⟨問題は ポテト⟩

⟨こっちのお腹の状況は ちゃんと伝えた⟩

⟨それを福ちゃんが くみ取ってくれているか⟩

(麻美) ⟨さぁ ポテトは…⟩

お待たせしました～｡

(麻美) ⟨どっちだ？⟩

(麻美) ⟨ない！ ＯＫ！⟩

>> 最初の１杯は俺からのサービス…｡

(３人) えっ！

(麻美)〔サービスしてくれるんだったら ポテトじゃなくてドリンクを タダにしてほしかったよね〕

(夏希)〔絶対言っちゃいけないけど そうなのよ〕

(麻美) よっしゃ！ イェイ！

(夏希) マジで？

いいの？ 怒られない？ >> 大丈夫｡

(美穂) ありがとう｡

(麻美) ありがとね 福ちゃん｡ >> いいえ～ ごゆっくり｡

(麻美) やった～｡

(美穂) めっちゃ喜ぶじゃん｡

(夏希) ねっ｡

(麻美) う～ん おいし～い｡

(美穂) 普通じゃん？

(夏希) 普通だよね 様子がおかしい｡

(美穂) おかしいね｡

(麻美) あっ そういえば さっき言えなかったんだけどさ｡

(夏希) うん｡

(麻美) 玲奈ちゃんの彼氏さ私の職場の先輩なんだよね｡

(夏希) えっ そうなの？

(麻美) 宮岡さんっていうんだけどね｡

(美穂) そうなんだ｡

(夏希) 何で あの時 言わなかったの？

(麻美) それがさ 宮岡さんさぁ既婚者なんだよね｡

(２人) えっ!?

(美穂) ウソでしょ？

(麻美) いや マジで｡

私 奥さん見たことあるから 間違いない｡

(美穂) え？

(夏希) え～｡

(麻美) 私もさ 写真見た時に ｢あっ 宮岡さんだ！｣って言いそうになったんだけど でも 既婚者じゃん？

どういう状況か分かんないから取りあえず いったん 黙っておいたよね｡

(夏希) う～わ｡

(美穂) え～｡

(夏希) 玲奈ちゃん 知ってんのかな？

(麻美) いや 知らないと思う｡

(２人) 何で？

(麻美) 写真に写ってる宮岡さん 結婚指輪してなかったのよ｡

でも あの人 職場では 普通に指輪してるから多分 隠して付き合ってると思う｡

(美穂) え～ よく気付いたね｡

(麻美) まず そこ見たよね｡

(夏希) う～わ 最悪じゃん｡

(麻美) 最悪だよ｡

どうしたらいいと思う？

(夏希) え～…｡

(美穂) え～…｡

(夏希) う～ん… いや 取りあえず玲奈ちゃんには 教えてあげたほうがよくない？

(麻美) やっぱそうか｡

(美穂) なるべく早いほうがいいよね｡

(夏希) そうだね｡

ちなみに今 何やってんのかな？

(麻美) あっ！

何？ ここに呼んじゃうってこと？

(夏希) それがよくない？

(美穂) いいかもね 連絡してみよっか｡

(麻美) あぁ でも私 連絡先 知らないや 知ってる？

(夏希) いや 知らない｡

(美穂) 私も知んないわ｡

(麻美) さっき聞いときゃよかったね｡

(美穂) 確かに｡

(夏希) あっ 福ちゃん知ってんじゃない？

(美穂) あ～｡

(麻美) 福ちゃん 知ってるかな？

(美穂) 知ってるかもよ｡

(麻美) 取りあえず聞いてみる｡

ＯＫ｡

(麻美) 福ちゃん ドリンクありがとね｡ >> おぉ どうした？

(麻美) あのさ 福ちゃんさ 玲奈ちゃんの 連絡先って知ってる？

>> 玲奈ちゃん？

(麻美) 森山玲奈ちゃん 分かる？

あ～！ 知ってるよ まだ変わってなければ｡

ちょっと待ってね｡

(麻美) やった 教えて｡

モンターニャで ばったり会ってさ｡ >> そうなんだ｡

あっ あった これ｡

(麻美) ありがとう え～っと…｡

(麻美) 福ちゃん 元気にやってんの？

元気だよ｡

あ そうだ 実は俺 ４年前に離婚したんだよね｡

(麻美) そうなんだ… ありがとう｡

そんで その後 ここで働いてた子と再婚してさ｡

(麻美) そうなの？ >> おととし 子供が生まれて｡

(麻美) お～！ おめでとう！ >> ありがとう｡

写真見る？

(麻美) 見る！ 見る！

わっ 超かわいい～ 福ちゃんそっくりじゃん｡

ホント？ よく言われんだよね｡

(麻美) ⟨よかった 予定通り生まれていた⟩

音楽は？ >> 音楽やめちゃったんだよね｡

(麻美) そうなんだ｡

結局 向いてなかったんだろうね｡

(麻美) そっか… でも 今は幸せなんでしょ？

うん 幸せだね～｡

(麻美) あぁ じゃあ よかった！

そっか よかった よかった｡

よし ありがとね｡ >> おぉ｡

(麻美) ⟨私の判断は 間違っていなかった⟩

うん は～い じゃあ後ほど｡

30分後に来るって｡

(夏希) よし こっからだね｡

(美穂) 何て言おっか｡

(麻美) あぁ…｡

まず私が 事実を そのまんま伝えるとしてその後だよね｡

(美穂) 玲奈ちゃんが どのタイプかにもよるよね｡

(夏希) どのタイプ？

(美穂) 相手が 既婚者だって知った時にさきっぱり 別れるってなるタイプか奥さんと別れてほしいって なるタイプか開き直って不倫関係も 継続しちゃうタイプ｡

(夏希) 玲奈ちゃんは 別れるとはならなそう｡

(麻美) 確かに｡

(美穂) しかも相手もさ ｢奥さんとは うまくいってないんで｣とかさ｢そのうち別れるつもりだった｣ とか言いそうじゃない？

(麻美) 家庭の破綻を におわせるパターンね｡

(夏希) 玲奈ちゃん 絶対流されるよね｡

(美穂) 流される｡

しかもさ 相手がクズなだけなのにさ自分が味方になってあげなきゃ とかなりそうじゃない？

(麻美) 歪んだ母性が 芽生えちゃうパターンね｡

(美穂) 王道だね｡

(夏希) じゃあ そうなる前にうちらが目を覚まさせなきゃだね｡

(美穂) 今夜が勝負なんだって｡

(麻美) ⟨３人とも 不倫経験はないが不倫ドラマは見まくっているので 不倫には詳しい⟩

どうしよっか｡

(夏希) う～ん どうしよっか｡

(麻美) まず 私が事実を伝えます｡

(夏希) で ショックを受けます｡

(美穂) そこで うちらは 慰めたりとかせずにひたすら 不倫の愚かさと デメリットを言って畳みかける｡

(麻美) うん それがいいと思う｡

(夏希) そうだね そうだね｡

(美穂) じゃあ なっちさ 玲奈ちゃん役 やってみてくれない？

(麻美) やる？ 一回｡

(夏希) じゃあ やるね｡

(美穂) そっからやってみよう｡

(麻美) じゃあ よ～い はい｡

(夏希) 遅くなってごめんね～｡

(美穂) お疲れさま～｡

(夏希) お疲れ～｡

(麻美) 玲奈ちゃんさ｡

(夏希) うん｡

(麻美) あの… 玲奈ちゃんに 大事な話があってね｡

(夏希) どうしたの？

(麻美) さっき 玲奈ちゃん 彼氏の写真 見せてくれたじゃない？

(夏希) うん｡

(麻美) あの人さ 実は 私の職場の先輩なのね｡

(夏希) あっ そうなんだ｡

(麻美) そうなの しかもさ あの人既婚者なのよ｡

(夏希) えっ？

(麻美) 奥さんいるのよ｡

(夏希) ウソでしょ？

(麻美) ホントなのよ 私 会ったことある｡

(夏希) えっ… 何それ…｡

えっ… 私 そんなの聞いてない｡

(美穂) ショックだよね｡

(夏希) ショックだよ ひど過ぎるよ｡

(美穂) あの… 玲奈ちゃん｡

急な話で 気持ちの整理つかないと 思うんだけどまぁ このまま付き合ってても 誰も幸せにならないからね｡

(麻美) そうだよ こんな先の見えない 恋愛に時間費やしてても後で後悔するだけだからさ｡

ここは つらいかもしれないけど｡

(夏希) ありがとう｡

(麻美) ねっ？ 別れよう｡

(夏希) 分かった 別れる｡

(麻美) えっ？

(美穂) えっ？

(夏希) 別れるわ ありがとね｡

(麻美) いや 待って 待って待って…｡

ねぇ？

(夏希) ん？

(麻美) もうちょっと粘ってくんない？

(夏希) 何で？

(美穂) そんな簡単じゃないと思うよ｡

(夏希) でも 正論じゃん？

(美穂) いや そうなんだけどそんな簡単だったら 全然 練習にならないから｡

(夏希) そっか｡

ごめん｡

もう１回やる？

(美穂) やる｡

(麻美) 別れてよかったって思える日が 絶対に来るから｡

(美穂) うん 絶対間違いない｡

(夏希) うん そうだよね… 分かった 別れる｡

(麻美) 偉い！

(夏希) ありがとう ありがとう｡

(麻美) この流れでカラオケだよね？

(夏希) ＯＫ そうだね｡

(美穂) ここ 曲のチョイス大事だよね｡

(麻美) 確かに｡

やっぱ恋愛系は 避けたほうがいいよね｡

(美穂) そうだね しかも前向きな曲｡

(麻美) う～ん…｡

(夏希) こうやって見ると 恋愛の曲ばっかだね｡

(麻美) そうなんだよ しかもさ実は不倫の曲でしたって パターンもあるじゃん？

(美穂) 不倫トラップね｡

(夏希) 何かこう 不倫の愚かさとか デメリットを歌った明るくて前向きな曲ないのかな｡

(美穂) 多分ないね｡

(夏希) ないね｡

最後はみんなで 中島みゆきの“ファイト！”を熱唱｡

(麻美) うん これで完璧でしょう｡

(夏希) 完璧だね｡

>> 遅くなってごめん｡

(３人) お疲れ～｡

(美穂) 飲み物は？ >> 頼んだ｡

(夏希) もらうよ｡ >> ありがとう｡

福ちゃん ここで働いてんだね｡

(夏希) うちらも今日 知ったんだよね｡

(麻美) ここ座って｡ >> ありがとう｡

(４人) カンパ～イ｡

いやぁ ホント久しぶりだよね｡

(美穂) うん｡

>> あの店って よく行くの？

(夏希) うん 月１回ぐらいかな｡

(美穂) もっと行ってない？

(麻美) 月２くらい行ってるかな｡

そうなんだ 私もたまに行くんだけどあそこ ごはんおいしいよね｡

(夏希) おいしいよね｡

(美穂) おいしいね パスタね｡

ボンゴレとか おいしいよね｡

(麻美) あぁ…｡

玲奈ちゃんさ｡

大事な話があってね｡ >> うん どうしたの？

(麻美) さっき 玲奈ちゃんに彼氏の写真 見せてもらったじゃん？

うん｡

(麻美) あの人さ 私の薬局の先輩なのね｡

>> えっ そうなの？

(麻美) 宮岡さんだよね？

そうそう へぇ～ あーちん 同じ職場なんだ｡

(麻美) そうそう…｡

でね…｡

宮岡さんね既婚者なのね｡

えっ？

(麻美) 奥さんがいるの｡

>> マジで？

(麻美) うん｡

(美穂) まぁ…｡

ねぇ ショックだとは 思うんだけどでもやっぱり こういう…｡

もしもし？

｢どうしたの？｣じゃねえよ てめぇ 結婚してんじゃねえかよ｡

｢は？｣じゃねえよ すっとぼけんな カス｡

ネタ上がってんだよ｡

｢落ち着いて｣じゃねえよ バ～カ！

てめぇ よくも私の大事な時間 無駄にしてくれたな クソが！

今すぐ 連絡先消せ｡

じゃねえと てめぇの職場 突撃するからな！

分かったか!?

ごめんね～｡

(夏希) ううん…｡

ハァ… マジ最悪だわ｡

(麻美) いや 最高だよ｡

えっ？ いや… ごめんね｡

(麻美) ⟨そして 私たちは…⟩

♪～

(麻美) ⟨久しぶりに喉がしゃがれるほど 盛り上がった⟩

(玲奈) こんな時間まで 付き合わせちゃって ごめんね｡

(麻美) 全然 超楽しかったよ｡

(夏希) ねっ 楽しかった｡

また行こう｡ >> うん 行こう行こう｡

(美穂) 玲奈ちゃんさ 未練とかないの？

>> 全然｡

(美穂) あ～ そう よかった｡

実は うちらね玲奈ちゃんが来るまで ちょっと心配してたんだよね｡

(麻美) 別れられなかったら どうしようって｡ >> そうなの？

全然別れるよ 時間の無駄じゃん｡

(麻美) だよね～｡

ていうかマジ 時間返してほしい｡

(夏希) あぁ 確かに｡

30前後の子に不倫仕掛けるって たち悪いよね｡

(美穂) 悪い｡

そうだよ 人の大事な時期を 自分の欲求の犠牲にさせてんだよ｡

マジ クソだよ｡

(夏希) クソだね｡

死んだら 地獄行きだよね｡

(美穂) 確定だね｡

(麻美) しかも 来世はギョウ虫だね！ >> あ～ 間違いない！

ギョウ虫確定だ｡

ねぇ聞いて ギョウ虫さ２人の時に 赤ちゃん言葉になんの｡

超キモくない？

(夏希) ヤバ！

そう あとさ 頼んでもないのに自分の自撮り送ってくんのも 超キモいよね｡

何かさ 付き合ってる時は 別に平気なんだけど別れた途端に そういうの 死ぬほどキモくなるよね｡

(夏希) 分かる｡ >> 何なんだろう マジ｡

〔車の急ブレーキ音〕

(麻美) イェイ！

(美穂) そろそろ行くか｡

(夏希) 帰りましょうか｡

(麻美) ⟨ここからは 私の知らない未来⟩

(エンジンの始動音)

♪～

(麻美) ⟨そして 週が明け またいつもの日常に戻った⟩

⟨ところで 私には一つだけ 気掛かりなことがあった⟩

⟨ギョウ虫こと 宮岡さんのこと⟩

⟨玲奈ちゃんとの一件を 知ってしまったのでどういう気持ちで接すればいいか 分からない⟩

(鍵を開ける音)

(麻美) ⟨あの宮岡さんが 初めて自分で鍵を…⟩

おはようございます｡ >> おはよう｡

(麻美) ⟨あの一件で反省し 気持ちを 入れ替えたということか⟩

どうぞ どうぞ｡

♪～

(麻美) ⟨ちなみに 鍵以外はいつも通り⟩

ちょっとごめんね｡

(麻美) ⟨そうなると 気持ちを入れ替えた部分が鍵だけなのが気持ち悪い⟩

⟨赤ちゃん言葉の件も合わせて トータル超キモい⟩

(宮岡) どうですか？ 良くなってきました？

(麻美) ⟨今日は お店がかなり暇なのでお昼は市役所時代に たまに行っていたおそば屋さんまで 繰り出してみることにした⟩

⟨市役所の向こう側にあるので２周目では 行ったことがなかったけど久しぶりに あそこのおそばが 食べてみ…⟩

⟨ふ～ん あれ？⟩

撮影？

⟨ドラマの撮影か⟩

⟨あっ！⟩

あぁ 誰だっけ？

⟨あっ 前野朋哉⟩

⟨ほぉ すご⟩

(クラクション)

(麻美) えっ？

えっ？ えっ？

ウソでしょ？

ウソ… あぁ～～～！

油断した～！

最悪｡

(麻美) ⟨前野朋哉で死んだか～！⟩

(麻美) ⟨ハァ… 何で私ばっかり…⟩

♪～

(麻美) すいません｡ >> はい｡

(麻美) また死んじゃったみたい なんですけど｡

では こちらにお名前と 生年月日をご記入ください｡

♪～

ありがとうございます 少々お待ちください｡

♪～

(麻美) あぁ…｡

はい 近藤麻美様ですね 33年間お疲れさまでした｡

(麻美) 私 前回も33歳で 死んじゃったんですけど｡

そうですね｡

(麻美) 33で死ぬっていうのは 私 決まってることなんですかね？

別に決まってるとかでは なくてですね 皆様それぞれお亡くなりになりやすい時期 というものがあるんですね｡

(麻美) 亡くなりやすい時期？ >> はい まずですね皆様それぞれ基本寿命というものがありまして｡

(麻美) 基本寿命…｡

これ 遺伝や環境によって 多少 個人差はあるんですけども近藤様の世代ですと大体90歳から100歳くらいまでの 間になってます｡

この基本寿命の他に こういった事故や病気といったｲﾚｷﾞｭﾗｰな死の確率が 各年齢ごとに 振り分けられてるんです｡

(麻美) 振り分けられてる…？ >> 合計は皆様 同じなんですけども振り分け方がランダムに なっていまして このように満遍なく振り分けられる方も いらっしゃればある時期に集中して高い確率に なってる方もいらっしゃるんです｡

で 近藤様の場合 それが30代になってるってことですね｡

(麻美) えっ！

え～… そうですか｡

でも これは あくまでも確率なのでもちろん お亡くなりにならない 場合もあるんですね｡

(麻美) あぁ… じゃあ 私が30代の間にもっと死なないように気を付けて 乗り越えていればその先も長生きできたかも しれないっていうことですか？

そういうことになりますね｡

(麻美) あぁ～！

ハァ…｡

(麻美) そこはもう悔やんでも仕方がない っていうことですもんね｡

そうですね それに関しては 運もありますんでね｡

では 新しい生命に ご案内してもよろしいですか？

(麻美) うぅ… はい｡

え～…｡

(麻美) さすがに次は人間ですよね？ >> ちょっと確認しますね｡

え～ 近藤様はですね｡

インド太平洋の ニジョウサバですね｡

(麻美) え？

インド太平洋の ニジョウサバですね｡

こちらですね｡

(麻美) サバ？ >> はい｡

(麻美) 人間じゃないんですね？ >> はい｡

(麻美) え～…｡

私 結構 今回 頑張ったと思うんですけど｡

ええ｡

(麻美) サバですか？ >> サバですね｡

(麻美) 人間になるっていうのは そんなに難しいことなんですか？

いや 人間っていうよりも希望している生命に 生まれ変わるためにはそれなりの徳が必要ということに なりますね｡

(麻美) 希望している生命？ >> はい｡

そもそも 人間が１番っていうのはあくまでも 人間の価値観でしかなくて生まれ変わる生命に 特に序列はないんですね｡

(麻美) そうなんですか｡

例えば カブトムシだった方の ほとんどは次もカブトムシを希望されますし カラスだった方のほとんどは次もカラスを希望されるんですね｡

(麻美) ふ～ん｡

ゴキブリもですか？ >> もちろんです｡

当然 そのためには多くの徳を 積んでおく必要があるという…｡

(麻美) はぁ～ なるほど｡

ちなみに私 サバは嫌なんですけどでも オオアリクイに比べれば 若干マシな気がするんですね｡

それは前回よりも 徳を積めてるってことですか？

そういうことだと思います｡

(麻美) でも 人間に生まれ変わるには徳が足りなかった っていうことですよね？

>> そうですね｡

(麻美) そうですか…｡

もう あそこから サバの人生っていうことですね？

あそこから サバの人生ということです｡

(麻美) サバね…｡

食べるのは好きなんですけどね｡ >> そうですよね｡

(麻美) ちょっと… 生きるのはキツいなぁ｡

すいません｡

(麻美) さすがにもう１回やり直すっていうのは できないですよね？

できますよ｡

(麻美) えっ？

できるんですか？ >> はい｡

(麻美) あっ そうなんですね｡

これって 納得いくまで何回でもやり直しが利くっていう システムですか？

いや もちろん限りはありまして｡

その回数も １周目で積んだ徳の 量によって決まっているので一度もやり直せない方も いらっしゃいます｡

(麻美) なるほど｡

ちなみに私は あと何回 やり直しができますか？

それはちょっと お伝えできないんです｡

(麻美) そっか じゃあ…｡

次で最後かもしれないしその次が 最後になるかもしれない…｡

そうですね｡

(麻美) じゃあ やり直します｡

>> やり直しますか？

(麻美) はい｡

ではですね こちら右側に 真っすぐ進んでいただきますと扉がございますので そちらから 今世にお入りください｡

(麻美) 分かりました｡

いってきます｡ >> いってらっしゃいませ｡

(麻美) あぁ～ ヤベっ｡

(麻美) ハァ～｡

よしっ！

(久美子) 麻美ちゃん ちょんちょん｡

かわいいね｡ >> 麻美～｡

(麻美) ⟨こうして まさかの 人生３周目がスタートした⟩

♪～ “ファイト！”

(麻美) ⟨もう一度やり直せることは ありがたいのだけど正直 ３周目の乳児期はさすがに だるかった⟩

⟨もう 喋っちゃおうかとも 思ったけれどそんなことをして 下手に 天才児扱いされてしまうと後々 自分の首を 絞めてしまうので仕方なく ２周目と同じように 手加減しながら育った⟩

⟨そして ３度目の保育園⟩

(洋子) 玲奈ちゃん パパ来たよ｡

(玲奈) は～い！

(麻美) ⟨さらに だるいことが発覚した⟩

⟨それは ２周目で解決した 玲奈パパの不倫問題をもう一度 解決しなければ いけないということ⟩

⟨もっと他に合理的な 解決方法がないか考えたけど特に思い付かなかったので…⟩

⟨結局 ２周目と同じく ポケベル作戦を決行し…⟩

(警官) お嬢ちゃん！ ちょちょ… お嬢ちゃん｡

お嬢ちゃ～ん｡

♪～

(麻美) ⟨２周目と同じく お巡りさんに追われた⟩

♪～ >> ああ 小魚たちの群れ >> きらきらと

♪～ 海の中の国境を越えてゆく

♪～ 諦めという名の鎖を

♪～ 身をよじってほどいてゆく

(寛) 麻美どうした？

(麻美) ん？

>> 食欲ないの？

(麻美) ううん｡

お魚 ちゃんと食べなきゃダメよ｡

(麻美) うん｡

♪～ 闘わない奴等が笑うだろう

♪～ ファイト！ 冷たい水の中を

(久美子) おいしいでしょ？ サバ｡

(麻美) おいしい｡

⟨次こそは 人間に生まれ変わると 心に誓った⟩